

なら

植防ニュース

農薬安全使用研修会の開催

3月19日に奈良県農業研究開発センター交流・サロン棟で開催された。一部を紹介する。

始めに、奈良県病害虫防除所の井村岳男氏から「令和2年度に問題になった害虫とその対策」について講演があった。

まず、トビイロウンカとは、成虫はショウジョウバエぐらいの小さな害虫だが、多発した成虫と幼虫が稲を吸汁して枯らし、坪枯れや反枯れを引き起こす。本種は、ベトナムで越冬した個体が中国で増殖した後、6月の梅雨時期に下層ジェット気流に乗って日本に飛来する。近年は大きな被害はなかったが、今年度は約50年ぶりの大発生となった。これは、長梅雨で飛来源からの風が多く吹き、飛来数が増加し、その後の高温・乾燥によって増殖が助長されたことが原因と考えられた。また、本県ではこれまで被害が少なかったため、本種を目的に防除をしておらず、効果の低下した薬剤を使用していたことも被害を助長した。

来年度以降の発生に備え、防除を徹底する必要があるが、防除には①発生密度が少ない②若齢幼虫③稲株元への薬剤の付着が多い・稲体の薬剤濃度が高い④薬剤感受性が高い、という条件を揃えることが必要である。まず、

一般社団法人奈良県植物防疫協会

〒633-0046 桜井市池之内130-1

奈良県農業研究開発センター内

TEL:0744(47)4861

FAX:0744(47)4862(専用)

HP: <http://www.narasyokubo29.sakura.ne.jp/>

目次

◎農薬安全使用研修会	1,2
◎「植物の健康を守るプロフェッショナル —植物医師—」	3
◎登録失効になった農薬	4
◎農薬の使用制限にかかる登録変更 (FAMICの農薬情報及び各農薬メーカーHPより)	4

効果の高い箱粒剤の使用が最も重要で、新規有効成分トリフルメゾピリムを含む箱粒剤（商品名：フルスロットル、スクラム、サンスパイクなど）は特に効果が高く、多発年でも9月まで効果が持続する。その後、8月に基幹防除、必要な場合は9月に追加防除を行う。本田防除は若齢幼虫に確実にかからないと効果がないため、散布剤は株元にかかるよう丁寧に散布し、粒剤は処理のタイミングに注意しなければならない。本田防除の要否と時期の判断については、病害虫防除所による情報提供を参考にして頂きたい。

発生情報(平時)

- 奈良県病害虫防除所HPに掲載
- 電話等問い合わせ:JA・農林振興事務所・共済・市町村・病害虫防除所:TEL0744-47-4481
(注意報発表時は下記にも通知)
- 奈良県LINE(スマホ)
- 携帯緊急情報配信システム(携帯)

クビアカツヤカミキリは、モモやスモモ、ウメ、サクラなどに被害をもたらすアジア大陸原産の特定外来生物で、2012年に国内で初めて確認された。本県では、2019年に成虫が初めて確認され、今年度に入り幼虫による被害が頻発し生息域も拡大している。本種は、樹幹の中を幼虫が食い荒らし、うどん状のフラス（糞や木くずの混合物）を排出する。放置すると木は枯死してしまう。1年目の幼虫はフラスが細く見つけにくい、2年目になると大量のフラスを排出し、材深く潜っていく。3年目は成虫となって木から脱出する。対策として、①伐採②幼虫の捕殺③農薬（果樹と観賞用で登録が異なる）④防虫ネットの被覆が講じられている。大量のフラスが排出されている木はいずれ枯死するので、成虫を分散させないために、伐採するのが効果的である。伐採木は粉碎か焼却し、移動させる際は、シート被覆し適切に処理しなければならない。今後の対策の考え方として、伐採に行き着く前に、近隣地域で発生した段階で、早めに対策をとり、被害拡大を防ぐことが重要である。果樹園地では薬剤の予防散布で発生を防ぎ、発生した場合は幼虫の捕殺やスプレー剤による防除、ネット被覆等、段階を追って対策をしていく。公園等の観賞用樹では農薬散布が困難なため、樹幹注入剤やネット被覆など予防策に力を入れて対策をしていくとよい。

最後に、奈良県産業用ドローンサポート会の半田嘉秀氏から「ドローンによるスマート農業」について講演があった。

農業用ドローンでは、従来の無人ヘリに比

べ、操作が容易で飛行時の騒音も少なく、機体や教習、整備に関するコストが比較的安価である。また、機体構造が簡素で重量も軽く、コンパクトに折りたたみが可能なため、持ち運びが容易である。農薬散布では、危険物の輸送と物の投下を行うため、飛行には国土交通省の承認が必要である。ドローンによる農薬散布では薬剤タンク容量が小さいため、高濃度・少量散布が主流となっている。現在、農林水産省ではドローンに適した農薬の登録を促進しており、2021年3月時点で770剤が登録され、今後登録数の増加が見込まれる。

奈良県産業用ドローンサポート会では現在10名の会員が所属しており、6台の農業用ドローンを所有し、JAを通じて農薬散布と水稻の直播播種を行っている。出穂後の斑点米カメムシと穂いもち病防除では2018年は7haであったが、2021年には200haを予定しており、県内での需要が高まっている。



講演中の半田嘉秀氏



農業用ドローンAGRAS MG-1

展開時は約150cm四方だが、収納時は約80cm四方まで小さくなる

「植物の健康を守るプロフェッショナル—植物医師」

農地や公園、緑地、宅地などで発生する植物病を診断・治療・防除・予防するための知識と技術を備えた植物医師が現在94名います。その活動を紹介します。

植物医師とは

植物医師は、植物保護に関わる高度な知識・技術・経験・倫理を有する専門家であり、文部科学省所管の技術士（農業部門・植物保護）第二次試験合格者の中から、（一社）日本植物医科学協会が実施する審査に合格した方が認定されています。

都道府県で植物保護に関わる職員を中心に、企業、国の研究機関、大学、団体などの幅広い人材により構成され、関東44名、近畿・中四国25名、北海道8名、九州8名、東北7名、北陸2名が各地域で活動されています。

植物医師の資質

日本植物医科学協会植物医師規則では以下の資質が求められています。①食料・農業・環境に関する幅広い知識、②作物・野菜・果樹・花き・花木・樹木・芝草などの植物病の診断・治療・防除・予防に関する高度な知識と技術、③植物病の発生生態ならびに農薬に関する高度な知識と技術、④環境保全型農業および総合的病害虫・雑草管理などの知識と技術、⑤植物の栽培および利用に関する知識と技術、⑥遺伝子組み換え技術や食の安全に関する知識、⑦植物病の診断・治療・防除・予防（予察）に関する試験・研究・普及・教

育（指導）に携わった経験を有する。

植物医師の活動

植物医師は、植物病の診断・治療・防除・予防を通じて、植物の健康を守り、農業をはじめ日本の社会全体を豊かにする役割を担っています。農家や企業が直面する問題を解決し、農業生産・経営を効率化することができる強力なパートナーです。

植物の病気の診断と処方箋の提供、農家や企業、普及指導員、研究者など農業関係者への技術講習会や講演会、種苗の無病診断や試験研究受託、診断技術の開発など、植物の健康に関する多様なニーズにお応えします。講師派遣のご相談は事務局へ。

安心と信頼を保証

全ての植物医師が高い技術者倫理を備えています。法令の遵守はもちろん、信用や秘密の保持が義務づけられているので、クライアントに安心と信頼を提供します。植物の健康だけでなく、「総合的病害虫管理（IPM）」の観点から、食の安全と安定供給、自然環境の保全もサポートします。なお、植物病理学会、応用動物昆虫学会、農薬学会、雑草学会、植物化学調節学会は、技術士（農業部門・植物保護）の社会での活躍に積極的に取り組んでいます。

連絡先：日本植物医師会事務局

住所：〒113-8657 東京都文京区弥生1-1-1 東京大学植物医科学研究室内

Web <http://jaclips.jp/joplad/>

Email office@joplad.jp

登録農薬失効情報 (2020.12.1~2021.2.28) 農林水産消費安全技術センター(FAMIC)の登録農薬失効情報より抜粋

登録番号	農薬の種類	農薬の名称	申請者名 (略称)	失効日 月/日/年
殺虫剤				
8178	ダイアジノン乳剤	日農ダイアジノン乳剤 40	日本農業	2/10/21
19005	イミダクロプリド液剤	ブルースカイ A L	ハイル	12/22/20
21967	イミダクロプリド液剤	H Jブルースカイ A L	ハイル 株式会社	12/23/20
22402	チアメトキサム水和剤	アクタラフロアブル	シダエント	12/11/20
23278	クロラントラニリブロール水和剤	シンジェンタ アセルプリン	シダエント	2/8/21
23628	ピフルプロミド水和剤	ダニコングフロアブル	日本農業	2/10/21
殺虫殺菌剤				
20875	イミダクロプリド・スピノサド・トリシクラゾール粒剤	ビームアドマイヤースピノ箱粒剤	タカアグロ	1/14/21
21261	シフルトリン・トリアジメホン液剤	ヒットゴール液剤 A L	ハイル 株式会社	12/2/20
21490	イミダクロプリド・スピノサド・トリシクラゾール粒剤	パワーリードスピノ箱粒剤	タカアグロ	1/14/21
22334	エマメクチン安息香酸塩・チアメトキサム・ジフェノコナゾール水溶液	ガーディー S G	シダエント	12/11/20
殺菌剤				
17699	ジエトフェンカルブ・チオファネートメチル水和剤	ホクコーゲッター水和剤	北興化学	12/2/20
21202	シメコナゾール・メトミノストロピン粒剤	イモチミン粒剤	三井化学アグロ	1/29/21
23168	銅水和剤	キュープロフィックス 40	I-ビート	1/21/21
除草剤				
18227	エスプロカルブ・ジメタメトリン・ピラゾスルフロンエチル・プレチラクロール粒剤	I C I スパークスター粒剤	シダエント	12/11/20
19629	ジメタメトリン・ピリプチカルブ・プレチラクロール水和剤	チバガイギー・農将軍フロアブル	シダエント	12/11/20
20845	シハロホップブチル・ジメタメトリン・ピラゾスルフロンエチル・プレチラクロール粒剤	シンジェンタ・ホクト 1 キロ粒剤	シダエント	12/11/20
20953	グリホサートイソプロピルアミン塩・M C P B 水和剤	クサビカフロアブル	三井化学アグロ	1/29/21
20981	ピラゾスルフロンエチル・ピリフタリド・プレチラクロール粒剤	アピロスター 1 キロ粒剤	シダエント	12/11/20
20983	ピラゾスルフロンエチル・ピリフタリド・プレチラクロール水和剤	アピロファイン顆粒	シダエント	12/11/20
20985	ピリフタリド・プレチラクロール・ベンズスルフロンメチル粒剤	アピロトップ 1 キロ粒剤 5 1	シダエント	12/11/20
21015	ブタクロール乳剤	モンサントマーシエット乳剤	ハイル	2/3/21
21016	アラクロール乳剤	モンサントラッソー乳剤	ハイル	2/3/21
21391	ジメタメトリン・ピラゾスルフロンエチル・ピリフタリド・プレチラクロール粒剤	アピロファイン D ジャンボ	シダエント	12/11/20
21552	ピリフタリド・プレチラクロール・ベンズスルフロンメチル水和剤	アピロプロフロアブル	シダエント	12/11/20
22723	ピリフタリド・プレチラクロール・ベンズスルフロンメチル・メソトリオン粒剤	アピロキリオ M X 1 キロ粒剤 7 5	シダエント	12/11/20
22724	ピリフタリド・プレチラクロール・ベンズスルフロンメチル・メソトリオン粒剤	アピロキリオ M X 1 キロ粒剤 5 1	シダエント	12/11/20
その他剤				
12059	生石灰	菱印ボルドー液用粉末生石灰	菱光石灰	12/22/20
12060	生石灰	菱印ボルドー液用生石灰	菱光石灰	12/22/20
22747	チアメトキサム複合肥料	花色彩	シダエント	12/11/20

農薬の使用制限にかかる登録変更(2021.1.1~3.10)

農林水産消費安全技術センター(FAMIC)農薬情報・速報及び各農薬メーカーHPより抜粋

登録番号	農薬の種類 (名称)	変更内容	申請者名 略称	登録日 月/日/年
7674	C Y A P 乳剤(住化サイアノックス乳剤)	「だいず」の削除	住友化学	2/24/20
21807	C Y A P 乳剤(協友サイアノックス乳剤)		協友アグリ	2/24/20
22667	C Y A P 乳剤(ホクサンサイアノックス乳剤)		ホクサン	2/24/20
10807	C Y A P 粉剤(住化サイアノックス粉剤)	「だいず」の削除	住友化学	2/24/20
23391	C Y A P 粉剤(協友サイアノックス粉剤)		協友アグリ	2/24/20